

学生の教員採用試験受験動向とその支援について —就職支援室におけるサポート事業を中心に—

川路 澄人*・佐竹 易子**

Sumito KAWAJI and Yasuko SATAKE

A Study on Relationship between the Trend of Apply to Examination for New Teacher and Support of Career Center.

要 旨

本研究は、島根大学教育学部に新設された就職支援室のサポート事業が、学生の教員採用試験受験動向、その可否にどのように関連したのかについて、検証することを目的に行ったものである。平成21、22年度卒業生における①教員採用試験の受験状況、その結果および就職状況、②「教師力パワーアップセミナー」への参加状況、③「教育実践応用セミナー」への参加状況、④就職支援室で開催しているセミナーへの参加状況、⑤「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の評価、⑥大学4年間の教職志向性の変化、⑦1000時間体験学修の体験時間数の7項目について調査を行った。結論として「教師力パワーアップセミナー」「教育実践応用セミナー」への参加率が高い学生と教員採用試験においても現役合格する学生との間に相関関係があることが統計的に証明された。

【キーワード：教員採用試験、就職支援、教師力の向上】

はじめに

島根大学教育学部（以下、本学部）では教員養成に特化した学部として今年度で8年目を迎えた。この8年間に特色ある学部教育として、改組を機に創設された「1000時間体験学修」¹⁾をはじめ、「プロファイルシートシステム」²⁾「面接道場」²⁾「学生フォーラム」²⁾「教師力育成総合支援システム」「学部情報ブログシステム」「環境寺子屋」³⁾等様々なアイデアが具体化され、他大学にはないオリジナルの教員養成カリキュラム・プロジェクトが充実してきた。こうした様々なプロジェクトのもと、本学部ではより良い教員養成を目指している一方、いざ、就職対策、つまり教員養成学部における教員就職へのサポート＝教員採用試験対策となると、なかなか具体的な方策を見出せずにいた。教育学部生の多くは教員を志望して教育学部に入学し、その就職先は必然的に教職を目指すこととなる。これまで、学生の就職は学生の個人的な問題であり、学問を修得するための大学教育ではそのサポートについて熱心でなかったことは事実である。教育学部という学部は、「教員養成」という目的を持った学部と考えるのか、「教育について学問的に学ぶ」学部であって、その延長線上に教員免許というものがあるだけと考えるのか、両方の考え方が存在し、ほとんどの教育学部（あるいは過去教育学部と呼ばれた、新名称の学部）が両者を混在させた理念の中、日々教育を行っているのではなかろうか。筆者はそうした両者の考え方の折衷案で、互いを拘束し合い、身動きとれない状態になるよりも、両者を積極的に折衷することで、新たな前進が

できないものかと模索してきた。教員採用試験対策を積極的に行うことが、学生自身にとって自らの教職についての問題意識、教職に必要な知識や技能を高める絶好の機会になるのではと考えたのである。具体的には、学部のカリキュラムとは関係なく、およそ10年前から「教員採用試験対策セミナー」を個人的に開講し、学部長裁量経費等を活用して「教員採用試験受験ハンドブック」⁴⁾をほぼ毎年発刊してきた。

従来の就職委員会、就職プロジェクトといった学部組織が改変されるタイミングで、平成21年度から学部附属の就職支援室設置を働きかけ、それを実現した。筆者らは現在その就職支援室のスタッフとして、学部附属FD戦略センターと共催して「教師力パワーアップセミナー」をはじめとした様々な支援事業を展開している。

本論文では冒頭で述べた学部内での様々な新しい教員養成プロジェクトに加えて、就職支援室が行っている就職サポート事業が学生の教員採用試験受験の動向、あるいは結果にどのように影響したかを検証するとともに、今後の就職支援のあり方を検討するための基盤を形成したいと考える。

I, 調査対象・内容の概要

調査対象は平成21年度（平成22年3月卒業）の卒業生（170名）と、平成22年度（平成23年4月卒業）の卒業生（165名）、合計335名である。調査内容として、以下の7つを挙げた。

①教員採用試験の受験状況、その結果および就職状況

* 島根大学教育学部初等教育開発講座

** 島根大学教育学部特任講師

- ②「教師力パワーアップセミナー」への参加状況
- ③「教育実践応用セミナー」への参加状況
- ④就職支援室で開催しているセミナーへの参加状況
- ⑤「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の評価
- ⑥大学4年間の教職志向性の変化
- ⑦1000時間体験学修の体験時間数

これらの項目について概略を以下に説明する。

①教員採用試験の受験状況、その結果および就職状況

平成21年度に就職支援室が設置され、就職活動状況について、情報の一括管理を行えるようになった。それによって教員採用試験の受験状況を正確に把握が出来るようになった。これまで、学生が各専攻の指導教員へ自己申告したものを就職委員会の担当教員が集計する方式から、卒業予定者全員に対して「就職活動報告書」を就職支援室へ直接提出させる方式へ変更した。また未提出の学生に対しては電話、メールによる督促と、そこでの確認作業を繰り返すことにより、採用試験の受験状況と、一次、二次別の合否状況を把握することが可能になった。その数値については、本調査の基礎データとして第II章において詳述する。

②「教師力パワーアップセミナー」への参加状況

平成21年3月から始まった「教師力パワーアップセミナー」は毎年およそ7回開催している。その実施概要に

<表1>平成20、21年度「教師力パワーアップセミナー」の概要

回	セミナーの内容(目的)	対象	日時・場所
1	セルフプロデュースカード作成 2、3、4年生の学生交流 先輩教員との交流会 集団面接、集団討論の練習	2、3、4年生	平成21年3月10、11日 (1泊2日) サンレイク(出雲市)
2 ～ 5	集団面接、集団討論 (学部教員、サポートマイスターによるアドバイス)	3、4年生	平成21年3月18日 ～5月13日 14:15-16:45 学内
6	セミナーのまとめとなる集団面接 (教育学部同窓会有志によるアドバイス)	4年生	平成21年7月6日 14:15-16:45 くにびきメッセ(松江市)
7	タイトル:「未来へ向けて」 講話:「これからの新入教員に期待するもの」 4月から教壇に立つために必要なスキルと情報の提供 模擬職員会議での課題提案	4年生	平成21年12月12、13日 (1泊2日) サンレイク
1	セルフプロデュースカード作成 2、3、4年生の学生交流 先輩教員との交流会 集団面接、集団討論の練習	2、3、4年生	平成22年3月9、10日 (1泊2日) サンレイク

<表2>「第1回 教師力パワーアップセミナー」の日程

時刻	1日目の活動内容
8:30 集合	大学集合 出欠確認
9:00 出発	バスでサンレイクに出発
9:30	サンレイク到着
10:00	開校式
10:30~11:45	グループごとのコンセプトマップの作成と発表
11:45~12:40	昼食と休憩
12:45~13:45	セルフプロデュースカード作成
14:00~15:00	3、4年生の交流会 教員採用試験 勉強方法について等
15:15~17:30	セルフプロデュースカード作成(4年生を講師として)
17:30~19:00	夕食・入浴
19:00~21:00	先輩教員(過去3年以内の卒業生)との交流会 教職について、初任者研修について等
21:00~22:30	入浴 就寝
	2日目の活動内容
6:30~7:30	起床 部屋の清掃・片付け
7:30~8:15	朝食
8:30~11:30	セルフプロデュースカードの添削(4年生・学部教員が講師として)
11:30~13:00	昼食と休憩
12:15~	面接小セミナー(あいさつの仕方とイスの座り方講座)
13:00~15:30	集団討論・集団面接のトレーニング <サポートマイスターに集団面接での面接官役を依頼。学生の面接内容にコメント>
15:45	閉校式
16:00	バスで大学へ出発
16:30	バス大学へ到着 各自、解散

については<表1>に、また、第1回目の宿泊型セミナーの日程は<表2>に示す。この「教師力パワーアップセミナー」は平成19年度に採択された「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」の一環で実施されたもので、GP終了後も継続して実施しているものである。(写真1~5参照)

毎年3月に実施する宿泊型のセミナー(2、3年生が参加)には平成21年67名、平成22年93名、平成23年110名と年々参加者が増加し、学生への認知度も高まっている。

③「教育実践応用セミナー」への参加状況

「教育実践応用セミナー」(前期月曜日9、10時限)は当初、初等教育開発専攻の深化型カリキュラム(初等教育開発専攻生のみ履修できる科目)として筆者が開講していたものである。他専攻の学生は履修登録を行わずに、聴講する形でのみ対応していたが、学生から単位化の要望があり、現在では履修可能にしている。講義内容、方法は、筆者が他の学部教員と協力して、教員採用試験で実施される「個人面接」「集団面接」「集団討論」「模

擬授業」を自ら体験することによって学ぶ、アクティブラーニングの方法を導入している。そうした中で受講生相互の教職スキルの向上を目指している。(写真6参照)

④就職支援室で開催しているセミナーへの参加状況

全学のキャリアセンターとは別に、教員採用試験に特化して設置された就職支援室では、学生への独自のサービスを展開している。中国五県を中心とした採用試験問題集の閲覧、過去問の情報収集、教員採用試験に関する質問、相談への対応を実施する一方、教員採用試験への対策として前期の間、日替わりでセミナーを開催している。〈表3参照〉

〈表3〉日替わりセミナーのメニュー

曜日	セミナータイトル	担当者
月曜	特別支援教育セミナー	原
火曜	自己アピール文添削セミナー	川路
水曜	就職悩み相談	足立(臨床心理士)
木曜	教員採用試験出願願書の書き方	川路
金曜	一般常識・マナーアップセミナー	佐竹

就職支援室では、これら以外に「就職活動体験報告書」を活用し、学生の就職活動情報を調査、その採用試験の情報を蓄積している。また、新たに開発された学部情報ブログシステムを利用し、教員採用試験に関する情報を学生に逐次発信している。

⑤「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の評価

「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ」は主専攻での教育実習、「学校教育実習Ⅴ」は異校種での教育実習、「学校教育実習Ⅵ」は選択型の教育実習である。本学部では「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」が3年次に実施される。特に「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ」は1+4週間(5週間)実施され、学生の教職志向、教員採用試験への受験志向に大きく影響すると考えられる。

⑥大学4年間の教職志向性の変化

本学部では1年次から「学校教育実習」が終了するたびに、附属教育支援センター学校教育体験領域専門部会において記名式アンケートを実施し、その際、教職志向について調査を行っている。1年次からの教職志向性の変化と教育実習の関係、そこからの就職活動への影響を読み取ることが可能であると考えられる。

⑦1000時間体験学修の体験時間数

「1000時間体験学修」は学生の教職志向性や将来の選択に大きな影響を及ぼしている。その体験時間数は前出の支援センターで管理している。教職志向、教員採用試験の受験、そして合格にこの本学部の最も特色あるカリキュラムがどのように影響をしているのかを検証する。

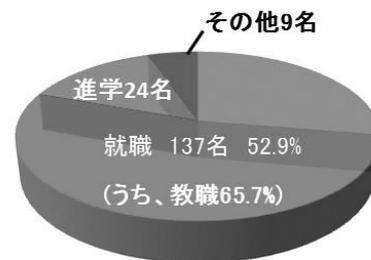
次章において、これらの項目の中から①の教員採用試験の受験状況、合格状況と特に関連性の強かったものを中心に調査結果を報告する。

Ⅱ、調査方法とその結果について

基礎データ(既述①の内容)として、今回扱う平成22年3月の卒業生(以下、平成21年度卒業生)の就職・進学状況は〈表4〉の通りである。

〈表4〉

平成21年度卒業生170名の就職・進学状況



平成22年度卒業生170名現時点での受験状況



平成21年度卒業生170名の就職・進学状況を見ると、就職希望者が137名、進学希望者が24名、その他と未定が9名という結果となった。教員への就職状況を見ると平成22年9月末現在で、正規採用が34名(幼稚園1、小学校22、中学校10、特別支援学校1)、講師採用が56名(幼稚園7、小学校31、中学校9、高等学校4、特別支援学校5)であった。平成21年度の特徴として、講師希望者に対する求人が少なく、講師待ちをしながら、教員採用試験の受験勉強を行っていた学生が5名いた。公務員は7名、一般企業への就職35名(保育士を含む)という結果となった。卒業生における教職の割合は52.9%となり、就職希望者にしめる割合は65.7%であった。

また、平成23年3月卒業生(以下、平成22年度卒業生)については、165名中、113名が教員採用試験を受験し、合格者は41名だった。正規採用が41名(幼稚園1、小学校29、中学校9、特別支援学校2)、講師採用が全体で70名、常勤講師が48名(幼稚園5、小学校20、中学校14、高等学校1、特別支援学校8)、非常勤講師が22名(小学校9、中学校6、小学校と中学校を兼務1、高等学校4、特別支援学校2)であった。教員として勤務する卒業生が111名にのぼり、全体の67.3%となった。(平成23年9月末現在)この数値は過去10年間で最高の数値となった。

平成22年度の特徴として、公務員としての就職者数が20名おり、不況下における公務員志向の高さが伺える。また、講師採用についても前年同様低下傾向があり、講師待ちをする学生が6名いる。

こうした基礎データ(①)に対して、既述の調査項目②～⑦との教員採用試験の受験動向、結果との相関について調査を行った。その方法としては、教員採用試験を受験し、一次試験で不合格であったグループ、一次試験に合格したが二次試験で不合格であったグループ、二次試験(最終)に合格したグループの3つのグループ間において、それぞれの項目との間に明らかに相関があったかについて統計調査を行った。(末尾<表5>を参照)

本章では調査項目②～⑦の中で顕著に関連性が見出された②、③についてその詳細を報告する。

②「教師力パワーアップセミナー」への参加状況と教員採用試験の結果との相関

平成21年度卒業生のうち、全7回のセミナーへの参加数の割合は1回以上の参加者は68名で全体の40%だった。参加者をその参加回数で見ると、1～2回21名(31%)、3～4回16名(23%)、5～6回25名(37%)、全回参加が6名(9%)という結果であった。また、平成22年度卒業生について同様の参加状況は、全6回のセミナーへの参加数の割合は1回以上の参加者は102名で全体の60%だった。参加者をその参加回数で見ると、1～2回30名(29%)、3～5回46名(45%)、全回参加が26名(26%)という結果であった。

教師力パワーアップセミナーに参加した回数に対する教採合格者数と合格率との関係であるが、平成21年度卒業生では1～2回の参加者で5名、23.8%、3～4回で6名、37.5%、5～6回で11名、44.0%、全回の7回で5名、83.3%という結果であった。ここでいう合格率というのは、各回数の参加者数に対しての割合を示している。合格者における参加回数は<表6>左を参照。

同じく平成22年度の卒業生を見ると1～2回の参加者の中での教採合格者数と率は4名、13.0%、3～5回で19名、41.3%、全回の6回で9名、34.6%となった。合格者における参加回数は<表6>右を参照。

この対比では、「教師力パワーアップセミナー」を実施していない過去の年度の学生との比較がされていないため、このセミナーの教育的効果がどの程度向上したのかについて検証できない。しかし合格者のほとんどがパワーアップセミナーへの参加率が高いことが分かる。

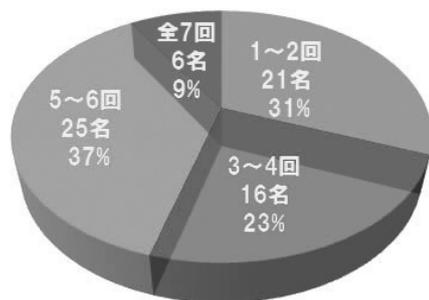
③「教育実践応用セミナー」への参加状況と教員採用試験結果との相関

平成21年度卒業生では、教育実践応用セミナーの講義回数が全13回、参加者数は92名であった。参加率をみると、1～4回は20人で21.7%、5～8回は15人で16.3%、9～12回は56人で60.9%、全13回は1人で1.1%であった。また平成22年度卒業生では、教育実践応用セミナーの講義回数が全14回、参加者数は109名であった。参加率をみると、1～4回は31人で28.4%、5～8回は28人で25.7%、9～13回は48人で43.1%、全14回は2人で1.8%で

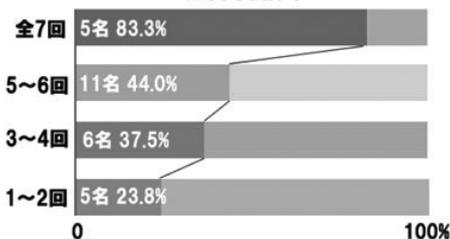
<表6>

教師力パワーアップセミナーへの参加状況と教員採用試験合格率についての相関

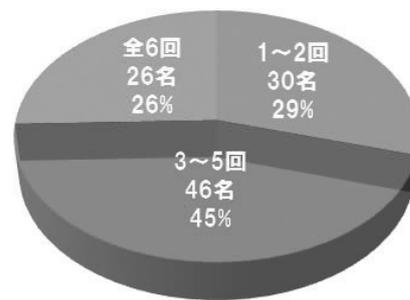
平成21年度卒業生(全7回/68名参加)



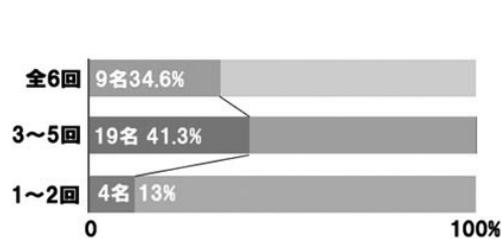
～教採合格率～



平成22年度卒業生(全6回/102名参加)



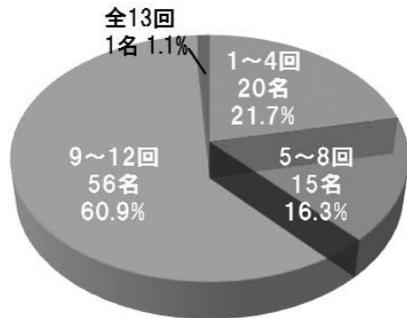
～教採合格率～



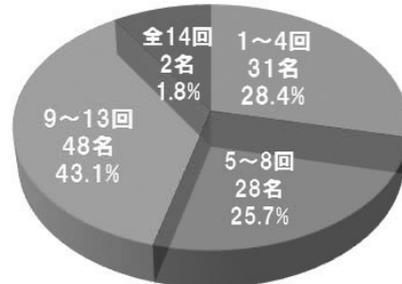
<表7>

教育実践応用セミナー参加率と教員採用試験合格率についての相関

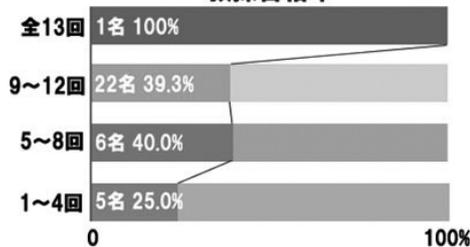
平成21年度卒業生(全13回/92名参加)



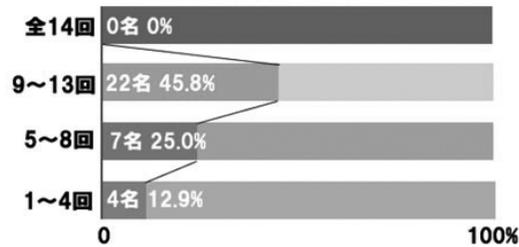
平成22年度卒業生(全14回/109名参加)



～教採合格率～



～教採合格率～



あった。

参加回数に対する教採の合格率をみると、平成21年度の卒業生では、1～4回の参加者中、5名が合格し25%、5～8回は6名合格し40%、9～12回は22名合格し39.3%、全13回は1名合格し100%となった。平成21年の現役合格者数は34名であったが、その全員がこの教育実践応用セミナーを受講していた。合格者における参加回数は<表7>左を参照。

同じく平成22年度卒業生の合格率をみると、1～4回は1名で3.2%、5～8回で6名21.4%、9～13回で18名38.3%、全14回は0名で0%となった。平成22年度の合格者数は34名（2010年10月時点）であり、そのうち33名（97%）が受講していた結果になった。合格者における参加回数は<表7>右を参照。

両年において参加回数が多いほど合格者が占める割合は高くなっており、この講義への参加意識が高いほど、最終的な教職志向の高い学生になっていると予想される。

Ⅲ、結果についての考察とそのまとめ

<表5>に示されるようにこの2つのセミナー、講義は、教員採用試験を受験した学生の中で、「受講することによって合格」という結果に対する統計的な優位さが明らかとなった。

結果によると、「教師力パワーアップセミナー」や就職支援室で行ったセミナー、講義が、教員採用試験の合

格に効果的であったと言えるが、それはある意味、当然のものとも言える。教職志向の高い学生が、教員採用試験現役合格を目指して、セミナーや教採対策に出席し、出席した回数が多いほど合格率が高い結果が出たということである。

今回の分析から見出された傾向として、教員採用試験を受験する学生の中であっても、セミナーや講義へ参加しない学生もある一定数いるということが分かった。こうした学生の教職に対する志向は高いのか、低いのか、自分で勉強するので他者と一緒にはしたくないのか、一生懸命することが恥ずかしいのか、いろいろな理由が考えられる。こうした学生への参加の声かけが必要なのか、そうではないのか。逆に、筆者たち教員側にとって、セミナーや講義に参加する一部の学生を「教員採用試験の先頭集団」として形成し、そこにこれまで無関心であった学生をその雰囲気の中に巻き込んでいく、そして積極的に巻き込まれたいと拒否する学生は自分で頑張ってもらおうという考えで良いのかという課題が残る。

また、今回特に相関が顕著に現れなかった④～⑦の項目について、その理由についても検討しなければならない。

例として教育実習の評価と受験動向には相関を見出すことができたが、本学部の教育実習は実習によって実習校種が異なることと、学生が必ずしも自分の主専攻の校種を受験しているとは限らないためデータとして掲載することを避けた。つまり3年次における5週間の教育実習を行った実習校種ではない校種（中等系の学生が小学

校)を受験するといった事例が多く見受けられるため、さらに詳細な検討が必要と判断した。

一方1000時間体験の体験時間数や教職への志向性は特に関連性を見いだすことができなかつた。1000時間体験学修については、全卒業生が、当然1000時間を超えている。しかしこの制度は卒業要件を満たした後、学生はそれ以上の時間数を申請しなくなるという現状がある。つまり、行きつけの体験先に自主的に体験に出かけ、時間認定をしなくなるというものである。

学生の教職志向性についても4年生の教員採用試験受験を決定する時期は、現状のような不景気下においては、遅くなる傾向がある。教育実習後に悩んでいた学生が、一般企業への就職を試みるが、実際にはうまくいかず断念し、教職へ転向する場合もある。そうすると今回発表したセミナーや講義への参加率が学生の本音の教職志向、あるいは教職への就職志向ということになる。

おわりに

今後の課題として「教員養成に特化した学部」というのが本学部の特徴とはいえ、地方大学の教育学部という実態からすると、以下のようなことが挙げられる。

第一に、約2～3割の4年生が教員採用試験を受験しないという現状である。教員採用試験を受験する学生の総数が少ないと、それだけ全体における合格率が低くなる。合格率だけが問題ではないが、現在は教員採用者数を文科省に報告し、それがHP等においてランキングで発表される時代である。さらには、学部全体の教職希望者が減少してくると、それだけで教員養成の活気というもの減退してくる。

ゼロ免課程のない本学部にとって、教職志向の高い高校生の選抜が重要となり、入試の段階においてそうした学生を集めるアナウンス(入試広報)の重要性が高まっていると考える。

第二に、本学部への入学生には出身県に著しい偏りがある点である。ここ数年、山陰地方出身の学生が6割以上を占めている。教職志向が高い学生においても、出身が鳥根、鳥取県の場合、教員採用試験の倍率が依然高い水準の地元を受験する現状がある。教職志向、教職スキルが高く、教育現場での体験時間や子どもと関わる経験値の高い学生であっても、倍率の高い試験においては、不合格となる可能性が高い現状がある。関東、関西の都市部では教員需要も高く、地方の優秀な学生を求めると、地元から離れたがらない地方の学生、さらに不況による公務員熱の高まりといった現状は、早期における教育学部生へのキャリア教育の必要性を感じる。

様々な課題を抱えながら、また本論文で詳述したような教員採用試験対策をすること自体にジレンマを感じながら、本研究を継続する必要性を感じている。今後の教員採用状況がどのように変化していくのかを踏まえながら、教育学部として本学部がどのような学生を教師として養成し、教育現場に供給していくのかについて検討す

る際、就職の問題は無視できない時代になっている。需要に合わない供給は、学部の存続さえも危ういものにする。筆者は現在、入試・就職・広報の学部業務を担当しているが「入口に入る前」の広報、「入口」である入試、「出口」となる就職の一体的な運用はこれからの学部運営には必須なものとなるであろう。

それぞれに改善が必要であろうことは十分自覚しながら、今、目の前にいる学生にとって有用な就職支援とそのための基礎調査、分析を続けていこうと考えている。

注

- 1) 「1000時間体験学習」については、その成果を日本教育大学協会研究集会において継続的に口頭発表してきた。また附属教育支援センターの紀要『教育臨床総合研究』にもその内容と成果、課題が掲載されている。
- 2) 「プロファイルシートシステム」「面接道場」「学生フォーラム」はいずれも鳥根大学教育学部FD戦略センター主催の事業である。平成17、18年度文部科学省「大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)」の内容として開始され、現在も継続実施されている。詳細は教員養成GP事業成果報告書『戦略的FDによる資質向上スパイラルの実現ー鳥根大学教育学部における教師教育の新たな取り組みー』に掲載されている。
- 3) 「環境寺子屋」は平成20～22年度の文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(特色GP)」に採択され、その詳細は教育GP事業報告書『「環境寺子屋」による理科好き教師の育成ー豊富な環境リテラシーを有する「理科に強い義務教育教員」育成プロジェクト』(平成23年3月 鳥根大学教育学部)に掲載されている。
- 4) 「教員採用試験受験ハンドブック」は平成17年度以降、19、20、21、22年度と継続して教育学部長裁量経費や後援会費を利用して発刊された。その内容としては、教員採用試験の仕組みや受験スケジュール、その年に出題された面接の質問、模擬授業の課題、合格者による体験記、OG訪問記等が掲載されている。

本論文は平成22年10月16日、平成22年度日本教育大学協会研究集会(鳥根大会)において口頭発表したものを加筆修正したものである。そのため、データとして当時のものを基準に分析したものをそのまま利用している部分がある。

執筆に際しては全体を川路が担当、佐竹がデータの収集と整理、グラフ化、分析を行った。相関係数に関する処理については健康・スポーツ教育講座の原丈貴准教授に協力していただいた。

<表5-1>平成21年度卒業生における分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
パワーアップ合計 参加回数	グループ間	91.785	2	45.893	8.837	.000 ***
	グループ内	498.538	96	5.193		
	合計	590.323	98			
教育実践応用セミ ナー	グループ間	322.693	2	161.347	10.305	.000 ***
	グループ内	1503.145	96	15.658		
	合計	1825.838	98			
教職志向得点	グループ間	1.503	2	.752	1.859	.161
	グループ内	38.820	96	.404		
	合計	40.323	98			
学校教育実習 3.4 評価	グループ間	280.527	2	140.263	5.587	.005 **
	グループ内	2410.099	96	25.105		
	合計	2690.626	98			
実習 5 評価	グループ間	121.529	2	60.765	1.478	.233
	グループ内	3947.218	96	41.117		
	合計	4068.747	98			
実習 6 評価	グループ間	131.134	2	65.567	1.647	.198
	グループ内	3822.502	96	39.818		
	合計	3953.636	98			
基礎体験必須	グループ間	1054829.410	2	527414.705	3.453	.036 *
	グループ内	14664103.338	96	152751.076		
	合計	15718932.747	98			
活動時間数合計	グループ間	866191.360	2	433095.680	2.715	.071
	グループ内	15314183.267	96	159522.742		
	合計					

<表5-2>平成22年度卒業生における分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
パワーアップ合計 回数	グループ間	30.342	2	15.171	5.292	.007 **
	グループ内	194.954	68	2.867		
	合計	225.296	70			
教育実践応用セミ ナー	グループ間	403.486	2	201.743	10.565	.000 ***
	グループ内	1699.416	89	19.095		
	合計	2102.902	91			
学校教育実習 3.4 評価	グループ間	731.919	2	365.959	14.638	.000 ***
	グループ内	2225.038	89	25.000		
	合計	2956.957	91			
実習 5 評価	グループ間	398.411	2	199.205	8.198	.001 *
	グループ内	2162.665	89	24.300		
	合計	2561.076	91			
基礎体験必須	グループ間	393.274	2	196.637	1.288	.281
	グループ内	13585.280	89	152.644		
	合計	13978.554	91			
活動時間数合計	グループ間	144339.454	2	72169.727	.549	.579
	グループ内	11697320.752	89	131430.570		
	合計	11841660.207	91			



<写真 1 >



<写真 4 >



<写真 2 >



<写真 5 >



<写真 3 >



<写真 6 >

<写真 1 > 教員採用試験に合格した 4 年生との交流会
 <写真 2 > 4 年生によるセルフプレゼンテーションカードの添削
 <写真 3 > 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校で現役教師をしている卒業生との交流会

<写真 4 > 学部教員と学部サポートマイスターによる集団面接の練習
 <写真 5 > 「くにびきメッセ」を会場に教育学部同窓会（島根県元校長、教頭等）の方を面接官とした集団面接練習会（第 6 回）
 <写真 6 > 教育実践応用セミナーにおける面接練習の様子